

2010/3/9

## 柏の景気情報（平成22年2月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成22年2月分）

○ 調査期間 : 平成22年2月17日 ~ 2月22日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	74	71.0%
建設	19	14	78.9%
製造	23	17	73.9%
卸・小売	43	29	67.4%
サービス	22	14	68.2%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成22年2月の調査結果のポイント】

≪業況DIは厳しい状態のまま横ばい≫

○2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲44.5(前月水準▲44.4)となり、マイナス幅が▲0.1ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲28.5(同▲41.6)、卸小売業▲58.6(同▲60.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲64.2(同▲53.3)、製造業▲17.6(同▲11.7)である

【建設業】では、「工事価格に対して仕入単価がわずかではあるが、上昇してきた。このまま工事価格額ではさらに受注そのものが厳しくなるであろう」(電気工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】では、「増加の傾向ではあるが底からの増加でありまだ先行きは不透明」(その他の鉄鋼業)、「建築基準法改正による影響が引き続きある」(一般産業用機械設備製造業)、「メディアで言われ始めている「景気が良くなってきた」という実感がまだ持てない。我々の業界や関係業者内ではまだ低迷が続いている」(その他の機械・同部分品製造業)などの声が上がってきた。

【卸小売業】では、「近隣に競合店が閉店した影響で客数売上ともに下降」(その他の各種商品小売業)、「原油価格の変動が激しい」(燃料小売業)、「客単価の下落が続ぎ、業種を問わず売り上げを減らしている。経費の節減だけではとても追いつかない」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「宿泊・宴会とも売り上げが厳しい。企業利用の減少及び人数減・単加減が著しい。2月の宴会については、同業他社の閉店から若干ではあるがゲストが流れてきつつある」(ホテル)のコメントがあった。

◎経営対策

各業種から、「現状に追われているとガクッと落ちる事態に陥る。先へ先への対策が必要」(板金・金物工事業)、「売上が好調な同業者もあるということなので、当社のPRの方法や営業方法に問題などが無いのか模索中です」(管工事業(さく井を除く))、「先行き不透明感が払拭できない環境の中での生活防衛意識が、顧客に強くなりこみされていると思われます。収入増が見込めない厳しい状況では営業費構造の改革が急務と思われませんが、即効策はなかなか出てこないと思われます」(百貨店)、「2月度売上高は厳しいながらも若干回復傾向がみてとれた。また、今年は2月に入り急に気温が低下したことから、昨年よりも冬ものが浮上しセール品の動きが好調であった。しかしその反動から春物の買い控えが目立ち、客単価の減少が顕著であった。セール終了後も大きな落ち込みは見られないことから、月末にかけて販売力を強化し前年確保につなげていく」(各種商品小売業)、「店の特色となるものがなく、今後一押しの一品を提供していきたい。柏のご当地グルメを開発したいと考えている」(酒場・ビヤホール)などの声が上がっていた。

◎デフレの影響

各業種から、「デフレの経済状況にあっても石油系の原材料が値上がりしており、売値の下落と合わせダブルパンチの状態である」(ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業)、「大手メーカーが下請け会社にコストダウンを要求、応えるために経営努力をし、製品は安くなるが利益は減る。結果賃金は上がらず、消費者は安いものを求め、大手メーカーはさらに製品価格を下げるといふ、悪循環。大手メーカーがもう少し下請けを守るような価格設定をしなければ、デフレは止まらない」(その他の金属製品製造業)、「デフレの影響が続いているため今後の消費動向、産地動向の情報で対応していく」(食料・飲料卸売業)などのコメントがあった。

◎価格意識

各業種から、「消費者は物の消費には敏感になり景気の上昇はまだまだと思われます」(食料・飲料卸売業)、「お客さまが価格に敏感であり、購入に至るまでの商品選択が厳しい。常に2~3店舗比較して購入。特に団体・クラブ大口の商談をまとめるには、プラスのサービスが必要で、結果経費増や値引きといったことになる」(その他の飲食料品小売業)、「お客様は高いものには手を出さなくなっており、商品を見る目が厳しい。納品先の合併統合もあり、取引のふるいにかけられそうだ」(書籍・文具小売業)などのコメントがあげられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	▲56.0	▲50.0	▲62.5	▲62.0	▲42.8
10月	▲57.1	▲71.4	▲58.8	▲63.3	▲31.2
11月	▲62.6	▲66.6	▲75.0	▲66.6	▲35.7
12月	▲59.2	▲73.3	▲41.1	▲68.9	▲46.6
1月	▲44.4	▲53.3	▲11.7	▲60.7	▲41.6
2月	▲44.5	▲64.2	▲17.6	▲58.6	▲28.5
見通し	▲28.3	▲50.0	▲11.7	▲44.8	▲21.4

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成22年2月の業況についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲44.5(前月水準▲44.4)となり、マイナス幅が▲0.1ポイント拡大した。

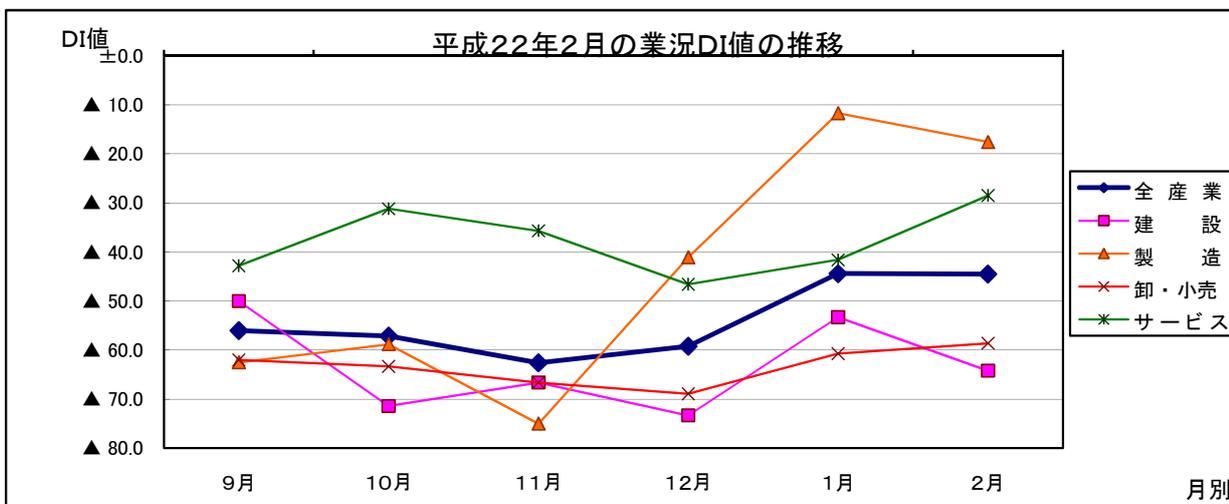
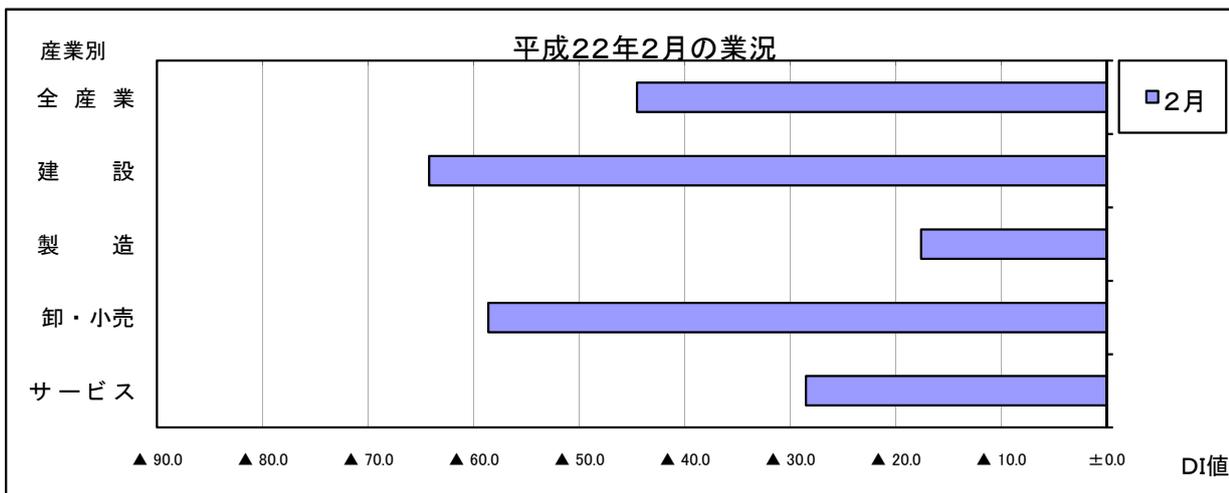
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲28.5(同▲41.6)、卸小売業▲58.6(同▲60.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲64.2(同▲53.3)、製造業▲17.6(同▲11.7)である

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲28.3(前月水準▲37.5)となり、マイナス幅が△9.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は製造業△11.7(同▲23.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲21.4(同▲33.3)、卸小売業▲44.8(同▲±50.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲50.0(同▲33.3)である。

平成22年2月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 9月	10月	11月	12月	平成22年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲56.0	▲57.1	▲62.6	▲59.2	▲44.4	▲44.5	▲28.3(▲37.5)
建設	▲50.0	▲71.4	▲66.6	▲73.3	▲53.3	▲64.2	▲50.0(▲33.3)
製造	▲62.5	▲58.8	▲75.0	▲41.1	▲11.7	▲17.6	△11.7(▲23.5)
卸・小売	▲62.0	▲63.3	▲66.6	▲68.9	▲60.7	▲58.6	▲44.8(▲50.0)
サービス	▲42.8	▲31.2	▲35.7	▲46.6	▲41.6	▲28.5	▲21.4(▲33.3)



【平成22年2月の売上についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲43.2(前月水準▲51.3)となり、マイナス幅が△8.1ポイント縮小した。

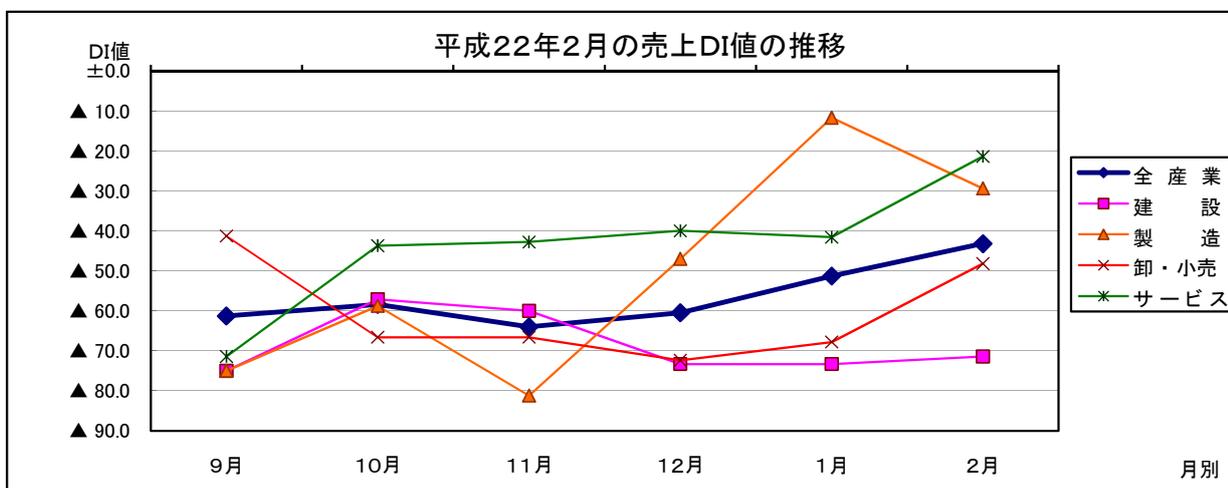
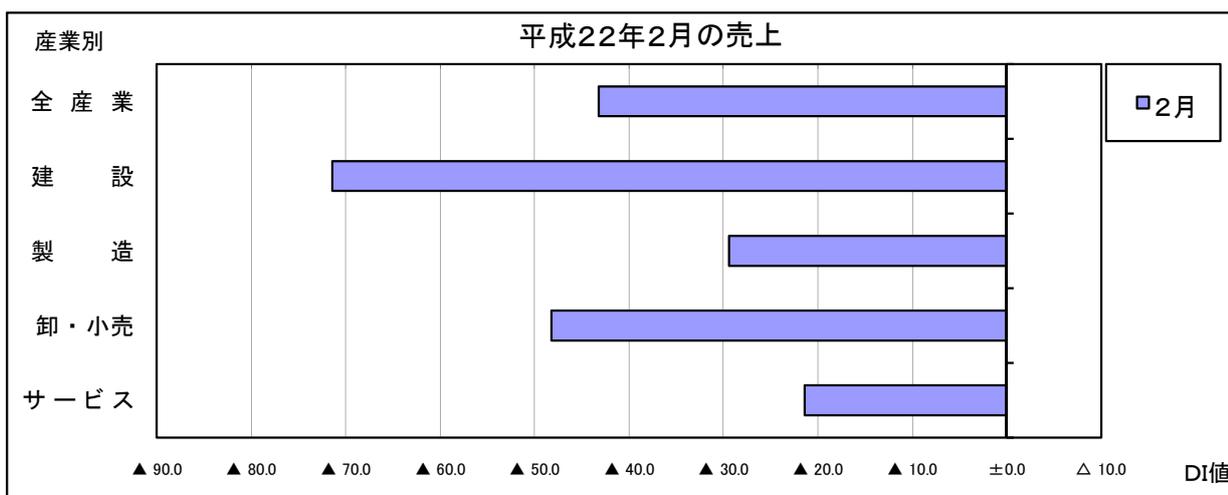
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲21.4(同▲41.6)、卸小売業▲48.2(同▲67.8)、建設業▲71.4(同▲73.3)であり、特に、サービス業はマイナス幅が△20.2ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲29.4(同▲11.7)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.2(前月水準▲36.1)となり、マイナス幅が△15.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△17.6(同▲35.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲14.2(同▲33.3)、建設業▲57.1(同▲60.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲27.5(同▲25.0)である。

平成22年2月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 9月	10月	11月	12月	平成22年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲ 61.3	▲ 58.4	▲ 64.0	▲ 60.5	▲ 51.3	▲ 43.2	▲ 20.2 ( ▲ 36.1 )
建設	▲ 75.0	▲ 57.1	▲ 60.0	▲ 73.3	▲ 73.3	▲ 71.4	▲ 57.1 ( ▲ 60.0 )
製造	▲ 75.0	▲ 58.8	▲ 81.2	▲ 47.0	▲ 11.7	▲ 29.4	△ 17.6 ( ▲ 35.2 )
卸・小売	▲ 41.3	▲ 66.6	▲ 66.6	▲ 72.4	▲ 67.8	▲ 48.2	▲ 27.5 ( ▲ 25.0 )
サービス	▲ 71.4	▲ 43.7	▲ 42.8	▲ 40.0	▲ 41.6	▲ 21.4	▲ 14.2 ( ▲ 33.3 )



【平成22年2月の採算についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲40.5(前月水準▲48.6)となり、マイナス幅が△8.1ポイント縮小した。

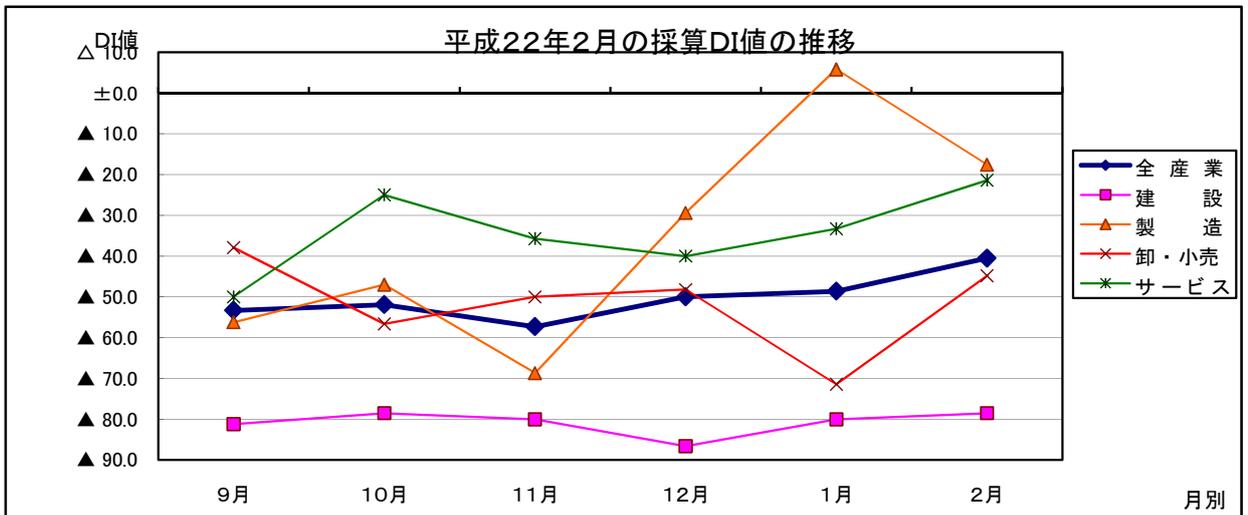
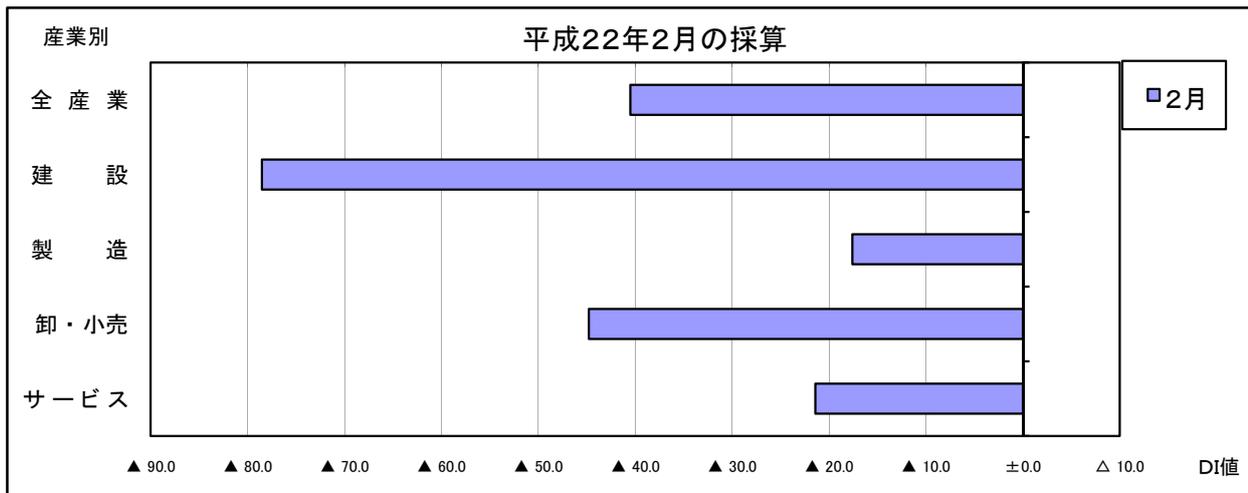
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲44.8(同▲71.4)、サービス業▲21.4(同▲33.3)、建設業▲78.5(同▲80.0)であり、特に、卸小売業はマイナス幅が△26.6ポイントと大幅に縮小した。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲17.6(同△5.8)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲40.5(前月水準▲48.6)となり、マイナス幅が8.1△ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△17.6(同▲29.4)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲31.0(同▲42.8)、サービス業▲14.2(同▲25.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲71.4(同▲60.0)である。

平成22年2月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 9月	10月	11月	12月	平成22年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲53.3	▲51.9	▲57.3	▲50.0	▲48.6	▲40.5	▲24.3(▲40.2)
建設	▲81.2	▲78.5	▲80.0	▲86.6	▲80.0	▲78.5	▲71.4(▲60.0)
製造	▲56.2	▲47.0	▲68.7	▲29.4	△5.8	▲17.6	△17.6(▲29.4)
卸・小売	▲37.9	▲56.6	▲50.0	▲48.2	▲71.4	▲44.8	▲31.0(▲42.8)
サービス	▲50.0	▲25.0	▲35.7	▲40.0	▲33.3	▲21.4	▲14.2(▲25.0)



【平成22年2月の仕入単価についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.8(前月水準▲4.1)となり、マイナス幅が▲6.7ポイント拡大した。

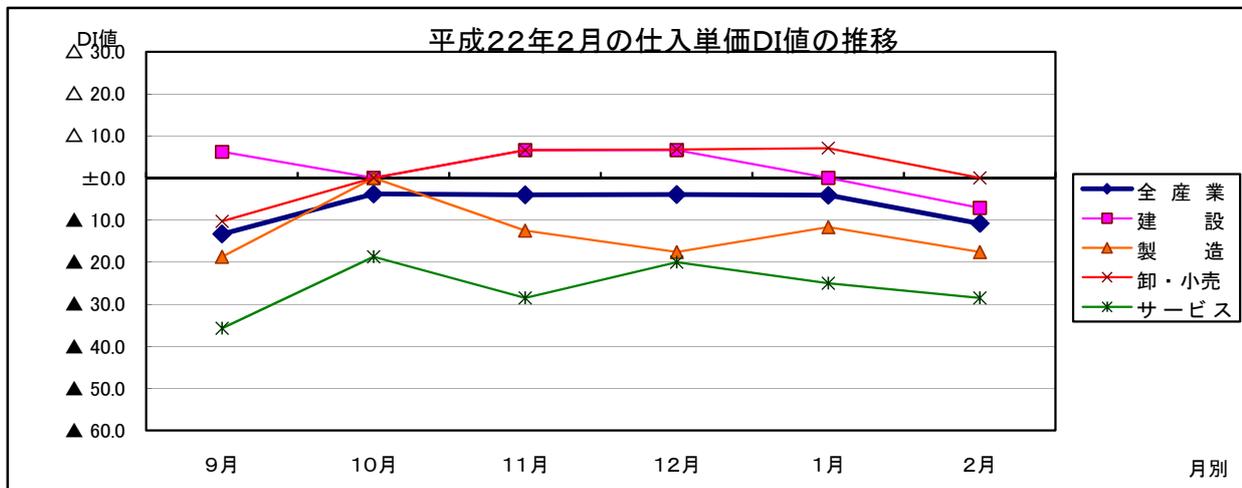
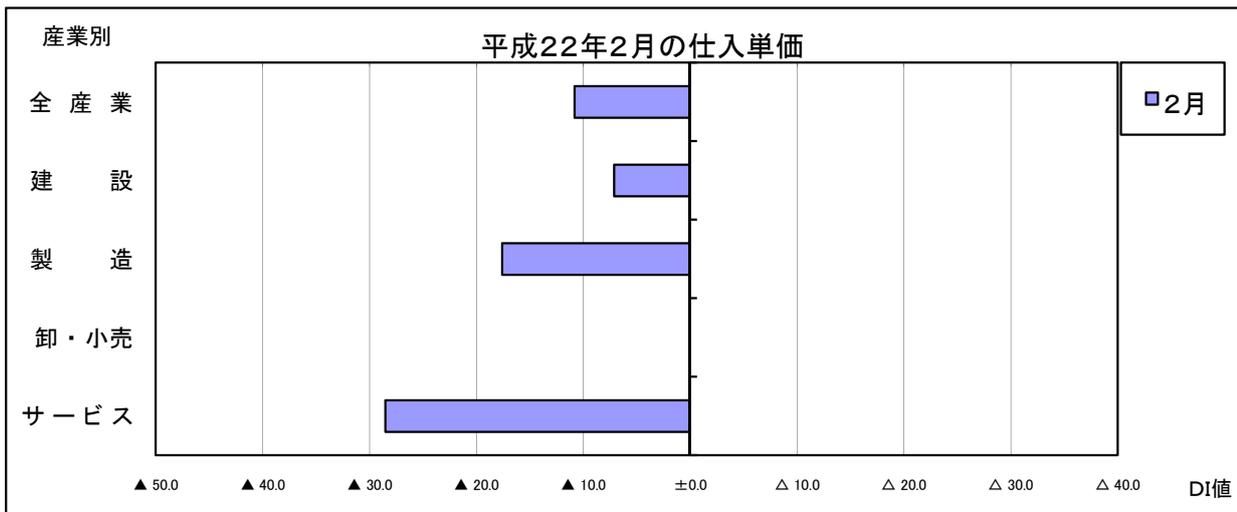
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、卸小売業±0.0(同△7.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲7.1(同±0.0)、製造業▲17.6(同▲11.7)、サービス業▲28.5(同▲25.0)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲2.7(前月水準▲6.9)となり、マイナス幅が△4.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、卸小売業△10.3(同▲7.1)である。変らない見通しの業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.8(同±0.0)、サービス業▲28.5(同▲25.0)である。

平成22年2月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 9月	10月	11月	12月	平成22年 1月	2月	先行き見通し 3月～5月(2月～4月)
全産業	▲13.3	▲3.8	▲4.0	▲3.9	▲4.1	▲10.8	▲2.7(▲6.9)
建設	△6.2	±0.0	△6.6	△6.6	±0.0	▲7.1	±0.0(±0.0)
製造	▲18.7	±0.0	▲12.5	▲17.6	▲11.7	▲17.6	▲5.8(±0.0)
卸・小売	▲10.3	±0.0	△6.6	△6.8	△7.1	±0.0	△10.3(▲7.1)
サービス	▲35.7	▲18.7	▲28.5	▲20.0	▲25.0	▲28.5	▲28.5(▲25.0)



【平成22年2月の従業員についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲9.4(前月水準▲11.1)となり、マイナス幅が△1.7ポイント縮小した。

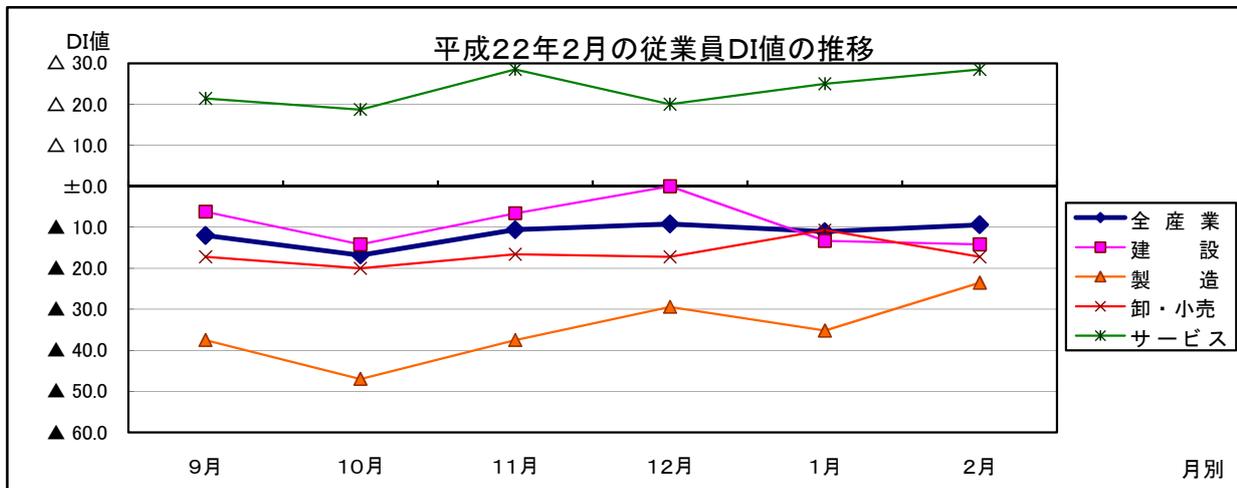
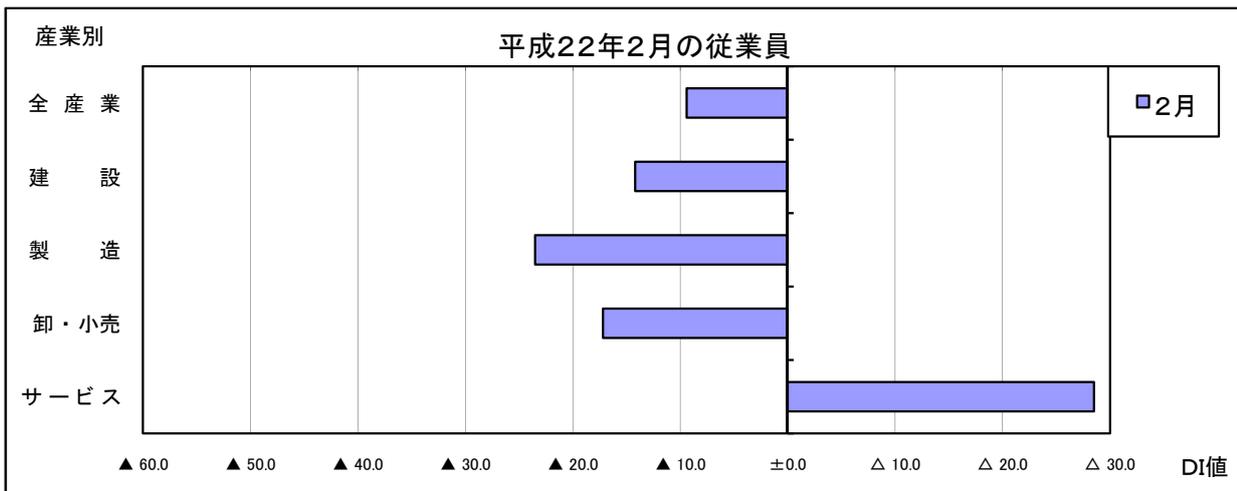
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△28.5(同△25.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲23.5(同▲35.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲17.2(同▲10.7)、建設業▲14.2(同▲13.3)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.1(前月水準▲16.6)となり、マイナス幅が△8.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△21.4(同△16.6)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲29.4)、卸小売業▲17.2(同▲21.4)で、特に、製造業はマイナス幅が△29.4ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲28.5(同▲20.0)である。

平成22年2月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 9月	10月	11月	12月	平成22年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲12.0	▲16.8	▲10.6	▲9.2	▲11.1	▲9.4	▲8.1(▲16.6)
建設	▲6.2	▲14.2	▲6.6	±0.0	▲13.3	▲14.2	▲28.5(▲20.0)
製造	▲37.5	▲47.0	▲37.5	▲29.4	▲35.2	▲23.5	±0.0(▲29.4)
卸・小売	▲17.2	▲20.0	▲16.6	▲17.2	▲10.7	▲17.2	▲17.2(▲21.4)
サービス	△21.4	△18.7	△28.5	△20.0	△25.0	△28.5	△21.4(△16.6)



【平成22年2月の資金繰りについての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.3(前月水準▲23.6)となり、マイナス幅が▲4.7ポイント拡大した。

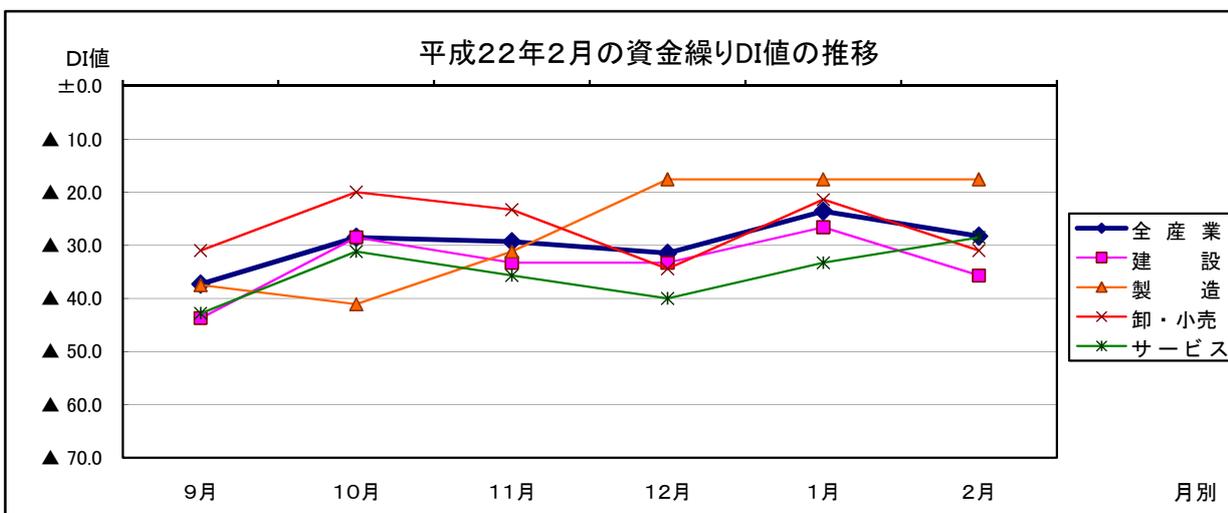
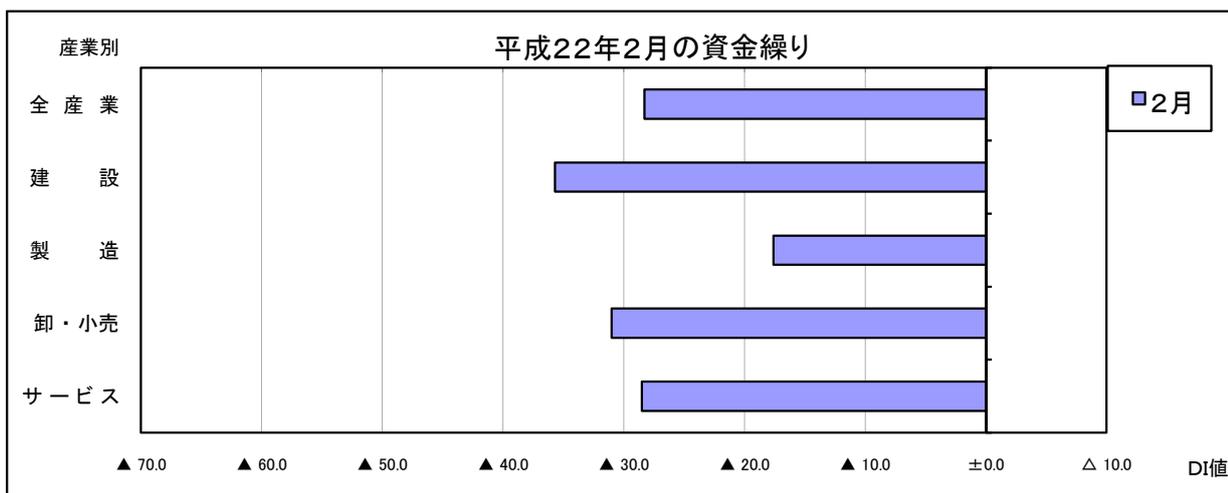
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲28.5(同▲33.3)である。変わらない業種は、製造業▲17.6(同▲17.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲31.0(同▲21.4)、建設業▲35.7(同▲26.6)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.6(前月水準▲26.3)となり、マイナス幅が△4.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲14.2(同▲33.3)、製造業▲5.8(同▲17.6)、建設業▲28.5(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲31.0(同▲25.0)である。

平成22年2月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成21年 9月	10月	11月	12月	平成22年 1月	2月	先行き見通し 3月～5月(2月～4月)
全産業	▲ 37.3	▲ 28.5	▲ 29.3	▲ 31.5	▲ 23.6	▲ 28.3	▲ 21.6 ( ▲ 26.3 )
建設	▲ 43.7	▲ 28.5	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 26.6	▲ 35.7	▲ 28.5 ( ▲ 33.3 )
製造	▲ 37.5	▲ 41.1	▲ 31.2	▲ 17.6	▲ 17.6	▲ 17.6	▲ 5.8 ( ▲ 17.6 )
卸・小売	▲ 31.0	▲ 20.0	▲ 23.3	▲ 34.4	▲ 21.4	▲ 31.0	▲ 31.0 ( ▲ 25.0 )
サービス	▲ 42.8	▲ 31.2	▲ 35.7	▲ 40.0	▲ 33.3	▲ 28.5	▲ 14.2 ( ▲ 33.3 )



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 43.2	▲ 20.2	▲ 40.5	▲ 24.3	▲ 10.8	▲ 2.7	▲ 9.4	▲ 8.1
建設	▲ 71.4	▲ 57.1	▲ 78.5	▲ 71.4	▲ 7.1	±0.0	▲ 14.2	▲ 28.5
製造	▲ 29.4	△ 17.6	▲ 17.6	△ 17.6	▲ 17.6	▲ 5.8	▲ 23.5	±0.0
卸・小売	▲ 48.2	▲ 27.5	▲ 44.8	▲ 31.0	±0.0	△ 10.3	▲ 17.2	▲ 17.2
サービス	▲ 21.4	▲ 14.2	▲ 21.4	▲ 14.2	▲ 28.5	▲ 28.5	△ 28.5	△ 21.4

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 44.5	▲ 28.3	▲ 28.3	▲ 21.6
建設	▲ 64.2	▲ 50.0	▲ 35.7	▲ 28.5
製造	▲ 17.6	△ 11.7	▲ 17.6	▲ 5.8
卸・小売	▲ 58.6	▲ 44.8	▲ 31.0	▲ 31.0
サービス	▲ 28.5	▲ 21.4	▲ 28.5	▲ 14.2

【平成22年2月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	現状に追われているとガクッと落ちる事態に陥る。先へ先への対策が必要	経営対策	板金・金物工事業
	売上が好調な同業者もあるということなので、当社のPRの方法や営業方法に問題などがないか模索中です。	営業方法模索	管工事業(さく井を除く)
	工事価格に対して仕入単価がわずかではあるが、上昇してきた。このまま工事価格額ではさらに受注そのものが厳しくなるであろう。	仕入単価微増 受注困難	電気工事業
製造	デフレの経済状況にあっても石油系の原材料が値上がりしており、売値の下落と合わせダブルパンチの状態である	デフレの影響 原材料価格上昇	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	増加の傾向ではあるが底からの増加でありまだ先行きは不透明	先行き不透明	その他の鉄鋼業
	大手メーカーが下請け会社にコストダウンを要求、応えるために経営努力をし、製品は安くなるが利益は減る。結果賃金は上がり、消費者は安いものを求め、大手メーカーはさらに製品価格を下げるという、悪循環。大手メーカーがもう少し下請けを守れるような価格設定をしなければ、デフレは止まらない。	コストダウン要求 経営努力 利益減少 下請け保護 デフレスパイラル	その他の金属製品製造業
	建築基準法改正による影響が引き続きある。 メディアで言われ始めている「景気が良くなってきた」という実感がまだ持てない。我々の業界や関係業者内ではまだ低迷が続いている。	建築基準法 回復実感なし 景気低迷	一般産業用機械設備製造業 その他の機械・同部分品製造業
卸小売	景況悪化の要因として柏地区にとどまらず相対的な百貨店業界の地盤沈下、合わせて先行き不透明感が払拭できない環境の中での生活防衛意識が、顧客に強くすりこみされていると思われます。収入増が見込めない厳しい状況では営業費構造の改革が急務と思われますが、即効策はなかなか出てこないと思われます。	百貨店低迷 先行き不透明 生活防衛意識 経営構造改革	百貨店
	前月に引き続き寒暖の差があった後厳しい冷え込みの中野菜入荷減のため単価高の品目が増えた。デフレの影響が続いているため今後の消費動向、産地動向の情報で対応していく。しかし、企業で改善をしても、今後の健保料、子供手当支給に伴う消費税所得税の変更も気になる。消費者は物の消費には敏感になり景気の上昇はまだまだと思われま	天候の影響 野菜単価高 デフレの影響 消費意識敏感	食料・飲料卸売業
	近隣に競合店が閉店した影響で客数売上ともに下降	競合店閉店 客数下降	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	お客さまが価格に敏感であり、購入に至るまでの商品選択が厳しい。常に2~3店舗比較して購入。特に団体・クラブ大口の商談をまとめるには、プラスのサービスが必要で、結果経費増や値引きといったことになる。	価格意識 比較購入 サービス転嫁 経費増加	その他の飲食料品小売業
	原油価格の変動が激しい	原油価格変動	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	客単価の下落が続き、業種を問わず売り上げを減らしている。経費の節減だけではとても追いつかない。	客単価下落 売上減少 経費節減	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	2月度売上高は厳しいながらも若干回復傾向がみとれた。また、今年は2月に入り急に気温が低下したことから、昨年よりも冬ものが浮上しセール品の動きが好調であった。しかしその反動から春物の買い控えが目立ち、客単価の減少が顕著であった。セール終了後も大きな落ち込みは見られないことから、月末にかけて販売力を強化し前年確保につなげていく。	売り上げ回復 天候の影響 冬物好調 春物買い控え 客単価減少 販売力強化	各種商品小売業
お客様は高いものには手を出さなくなっており、商品を見る目が厳しい。納品先の合併統合もあり、取引のふるいにかけてられそうだ。	価格意識 取引先減少	書籍・文房具小売業	
サービス	宿泊・宴会とも売り上げが厳しい。企業利用の減少及び人数減・単加減が著しい。2月の宴会については、同業他社の閉店から若干ではあるがゲストが流れてきつつある。	宿泊宴会減少 企業利用減少	ホテル
	店の特色となるものがなく、今後一押しの一品を提供していきたい。柏のご当地グルメを開発したいと考えている。	店の特色	酒場・ビヤホール

### ◎経営対策

- ・ 現状に追われているとガクッと落ちる事態に陥る。先へ先への対策が必要 板金・金物工事業
- ・ 売上が好調な同業者もあるということなので、当社のPRの方法や営業方法に問題などが無いのか模索中です 管工事業(さく井を除く)
- ・ 先行き不透明感が払拭できない環境の中での生活防衛意識が、顧客に強くすりこみされていると思われます。収入増が見込めない厳しい状況では営業費構造の改革が急務と思われますが、即効策はなかなか出てこないと思わ 百貨店
- ・ 2月度売上高は厳しいながらも若干回復傾向がみてとれた。また、今年は2月に入り急に気温が低下したことから、昨年よりも冬ものが浮上しセール品の動きが好調であった。しかしその反動から春物の買い控えが目立ち、客単価の減少が顕著であった。セール終了後も大きな落ち込みは見られないことから、月末にかけて販売力を強化し前年確保につなげていく。 各種商品小売業
- ・ 店の特色となるものがなく、今後一押しの一品を提供していきたい。柏のご当地グルメを開発したいと考えている。 酒場・ビヤホール

### ◎デフレの影響

- ・ デフレの経済状況にあっても石油系の原材料が値上がりしており、売値の下落と合わせダブルパンチの状態である ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
- ・ 大手メーカーが下請け会社にコストダウンを要求、応えるために経営努力をし、製品は安くなるが利益は減る。結果賃金は上がりず、消費者は安いものを求め、大手メーカーはさらに製品価格を下げるという、悪循環。大手メーカーがもう少し下請けを守るような価格設定をしなければ、デフレは止まら その他の金属製品製造業
- ・ デフレの影響が続いているため今後の消費動向、産地動向の情報で対応し 食料・飲料卸売業

### ◎価格意識

- ・ 消費者は物の消費には敏感になり景気の上昇はまだまだと思われます。 食料・飲料卸売業
- ・ お客さまが価格に敏感であり、購入に至るまでの商品選択が厳しい。常に2~3店舗比較して購入。特に団体・クラブ大口の商談をまとめるには、プラスのサービスが必要で、結果経費増や値引きといったことになる。 その他の飲食料品小売業

## 平成22年2月のCCI LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲44.5に対し、「CCI-LOBO」が▲56.2で、柏の方がマイナス幅が11.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、製造業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲43.2に対し、「CCI-LOBO」が▲51.6で、柏の方がマイナス幅が8.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業で10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲40.5に対し、「CCI-LOBO」が▲51.5で、柏のほうマイナス幅が11.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業で、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.8に対し、「CCI-LOBO」が▲3.5で、柏の方がマイナス幅が7.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲9.4に対し、「CCI-LOBO」が▲18.3で、柏の方がマイナス幅が8.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲28.3に対し、「CCI-LOBO」が▲36.2で、柏の方がマイナス幅が7.9ポイント小さい。すべての業種において「柏の景気」の方が良く、製造業は10ポイント以上良い。

# 平成22年2月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI > 50	好調 50 > DI > 25	まあまあ 25 > DI > 0	不振 0 > DI > -25	極めて不振 DI < -25

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 44.5	 64.2	 17.6	 58.6	 28.5
CCI LOBO	 56.2	 61.4	 47.4	 62.7	 54.5

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 43.2	 71.4	 29.4	 48.2	 21.4
CCI LOBO	 51.6	 46.4	 39.0	 62.3	 52.7

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 40.5	 78.5	 17.6	 44.8	 21.4
CCI LOBO	 51.5	 58.6	 42.3	 56.3	 49.7

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 10.8	 7.1	 17.6	 ±0.0	 28.5
CCI LOBO	 3.5	 12.3	 8.7	 4.8	 8.5

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 9.4	 14.2	 23.5	 17.2	 28.5
CCI LOBO	 18.3	 24.0	 24.2	 15.5	 9.3

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 28.3	 35.7	 17.6	 31.0	 28.5
CCI LOBO	 36.2	 42.5	 37.3	 35.4	 35.9

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# 柏の景気情報

## (2月の調査結果のポイント)

調査期間：平成22年2月17日～22日

調査対象：柏市内107事業所及び組合にヒアリング、回答数74

### 柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	▲56.0	▲50.0	▲62.5	▲62.0	▲42.8
10月	▲57.1	▲71.4	▲58.8	▲63.3	▲31.2
11月	▲62.6	▲66.6	▲75.0	▲66.6	▲35.7
12月	▲59.2	▲73.3	▲41.1	▲68.9	▲46.6
1月	▲44.4	▲53.3	▲11.7	▲60.7	▲41.6
2月	▲44.5	▲64.2	▲17.6	▲58.6	▲28.5
見通し	▲28.3	▲50.0	11.7	▲44.8	▲21.4

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

### 柏市の業況

業況D Iは厳しい状態のまま横ばい

2月の全産業合計のD I値(前年同月比)ベース、以下同じは、44.5(前月水準44.4)であり、前月とほぼ同様となった。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業28.5(同41.1)、卸小売業58.6(同60.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業64.2(同53.3)、製造業11.7(同41.1)である。

【建設業】では、「工事価格に對して仕入単価がわずかではあるが、上昇してきた。このままの工事価格額ではさらに受注そのものが厳しくなるであろう。」(電気工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】では、「増加の傾向ではあるが底からの増加でありまだ先行きは不透明。」(その他の鉄鋼業)、「建築基準法改正による影響が引き続きある。」(一般産業用機械設備製造業)、「メディアで言われ始めている「景気が良くなってきた」という実感がまだ持てない。我々の業界や関係業者内ではまだ低迷が続いている。」(その他の機械・同部分品製造業)などの声が上がってきた。

【卸小売業】では、「近隣に競合店が閉店した影響で客数売上ともに下降。」(その他の各種商品小売業)、「原油価格の変動が激しい。」(燃料小売業)、「客単価の下落が続く、業種を問わず売り上げを減らしている。経費の節減だけではとても追いつかない。」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「宿泊・宴会とも売り上げが厳しい。企業利用の減少及び人数減・単加減が著しい。2月の宴会については、同業他社の閉店

から若干ではあるがゲストが流れてきつつある。」(ホテル)のコメントがあった。

### 2月の景気キーワード

#### 経営対策

各業種から、「現状に追われているとガクッと落ちる事態に陥る。先へ先への対策が必要。」(板金・金物工事業)、「売上が好調な同業者もあるということなので、当社のPRの方や営業方法に問題などがなければ模索中です。」(管工事業) (さく井を除く)、「先行き不透明感が払拭できない環境の中で生活防衛意識が、顧客に強くすりこみされていると思われまます。収入増が見込めない厳しい状況では営業費構造の改革が急務と思われまます。即効策はなかなか出てこないと思われまます。」(百貨店)、「2月度売上高は厳しいながらも若干回復傾向がみてとれた。また、今年は2月に入り急に気温が低下したことから、昨年よりも冬ものが浮上しセールの動きが好調であった。しかしその反動から春物の買い控えが目立ち、客単価の減少が顕著であった。セール終了後も大きな落ち込みは見られないことから、月末にかけて販売力を強化し前年確保につなげていく。」(各種商品小売業)、「店の特色となるものがなく、今後一押しの一品を提供していきたい。」

#### デフレの影響

各業種から、「デフレの経済状況にあっても石油系の原材料が値上がりしており、売値の下落と合わせダブルパンチの状態である。」(ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業)、「大手メーカーが下請け会社にコストダウンを要求、応えるために経営努力をし、製品は安くなるが利益は減る。結果賃金は上がらず消費者は安いものを求め、大手メーカーはさらに製品価格を下げるという、悪循環。大手メーカーがもう少し下請けを守るような価格設定をしなければ、デフレは止まらない。」(その他の金属製品製造業)、「デフレの影響が続いているため今後の消費動向、産地動向の情報で対応していく。」(食料・飲料卸売業)などのコメントがあった。

#### 価格意識

各業種から、「消費者は物の消費には敏感になり景気の上昇はまだまだと思われまます。」(食料・飲料卸売業)、「お客さまが価格に敏感であり、購入に至るまでの商品選択が厳しい。常に2〜3店舗比較して購入。特に団体・クラブ大

柏のご当地グルメを開発したいと考えている。」(酒場・ピヤホール)などの声が上がっていた。

口の商談をまとめるには、プラスのサービスが必要で、結果経費増や値引きといったことになる。」(その他の飲食料品小売業)、「お客様は高いものには手を出さなくなっており、商品を見る目が厳しい。納品先の合併統合もあり、取引のふるいにかけれそうだ。」(書籍・文房具小売業)などのコメントがあげられた。

### CCI LOBOOの比較

全産業合計では、「柏の景気」が44.5に對し、「CCI LOBOO」が56.2で、柏の方がマイナス幅が11.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、製造業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業。

# C C I - L O B O

## 商工会議所早期景気観測(2月速報)

調査期間：平成22年2月15日～19日

調査対象：全国の407商工会議所が2623業種組合等にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

#### 業況DIは、マイナス幅は大幅縮小も依然厳しい状況

2月の業況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース以下同じ)は、56.2と、前月に比べ+6.1ポイントと、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。前月比+5ポイント以上となったのは2004年7月以来5年7カ月振り。ただ、比較対象となる昨年2月の業況DIが73.4と、過去最悪値を記録するなど極めて低い水準であったことが影響しており、実態は横ばい状態とみられる。業況は、製造業を中心に持ち直しの動きが続いているものの、大幅な需要不足によるデフレの深刻化などの影響により、水準は依然厳しく楽観を許さない。各地からは、「景気回復の実感が無い」との厳しい現状を訴える声も寄せられている。

先行きについては、47.1(前月比+4.7ポイント)と、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。新製向け輸出の増加等により製造業を中心に業況感の持ち直しが続いている。相次いだ大手自動車メーカーのリコール問題やデフレによる販売価格の低下、雇用・所得不安に伴う個人消費・住宅建設の減退、新年度の公共工事量の減少、燃料価格の上昇懸念などから、先行き不安を訴える声も依然根強い。

【建設業】「公共工事は、県や市の年度末補正で受注増だが、低価格受注となっている」「(一般工事業)中小企業金融円滑化法施行後、貸し出し条件の相談に行ったが断られた。交渉環境は厳しくなっている」「(塗装工事業)顧客の設備投資予算の減少に伴い、売上維持が困難になっている」「(電気工事業)」

【製造業】「昨年3月を底に徐々に回復、リーマンショック前の水準と比較すると7割から9割程度の状況(他金属製品製造業)」「景況は回復しつつあるものの、大手自動車メーカーのリコール問題がどのような影響を及ぼすか懸念している」「(ブリキ缶等製造業)」「燃料や原料価格の高騰が収益を圧迫し、極めて厳しい状況(陶磁器・同関連製品製造業)」

【卸売業】「住宅版工コポイント制度のスタートにあたり、営業体制の強化を検討している」「(各種商品卸売業)」「売上は輸出部門で目標を達成したが、国内販売不振のため横ばいで推移(農畜産水産物卸売業)」「自動車関連で動きがあるが、建設向けは停滞(鉱物金属材料卸売業)」

【小売業】「競合他社との価格競争が一段と激化し、販売価格低下が続いている。一方で、仕入価格値下げも限界で、経費節減で採算をなんとか維持している」「(百貨店)」「客層の中心である高齢者が一層消費に慎重になってきた(商店街)」「衣料品は売上減、食

品・住居関連商品の健闘により前年並みを確保。製造小売業への取組を強化し値上げ感があり利益の出る商品の開発が急務(その他の小売業)」

【サービス業】「売上が伸び悩む中、店舗経営が難しくなり、余力のあるうちに廃業する店舗が多くなっている」「(他の一般飲食店)」「例年になく観光客の利用が落ち込んだ。資金繰りが厳しく、4月以降持ちこたえられるかわからない」「(旅館)」「地方では景気回復の実感はない。消費低迷や仕入価格上昇など不安材料には事欠かない(食堂・レストラン)」

### 一月のキーワード

#### デフレの深刻化

販売価格が下がり、採算が悪化している企業が多く、デフレの深刻化による悪影響を訴える声が多く寄せられた。一方、原油価格等の上昇から石油製品価格を中心に押し上げに転じているものもみられる。「公共工事の減少で、大手ゼネコンが地方の民間建築工事に低価格受注しておりその影響を受けている」「(京都・一般工事業)」「燃料・原料の高騰が収益を圧迫し極めて厳しい状況。受注量は減少傾向で、デフレ下で今後の回復への期待感が低い」「(瀬戸・陶磁器・同関連製品製造業)」「価格に対する意識が強くなり、割引を待っている消費者が多い」「(山形・百貨店)」「電器小売業の値下げ競争が進み、大型店との競争に小規模電気店についてはいけない状況」「(江別・その他の小売業)」「スーパーなどの低価格攻勢により、客数減となり厳しい状況が続いている」「(蒲郡・商店街)」

【サービス業】「売上が伸び悩む中、店舗経営が難しくなり、余力のあるうちに廃業する店舗が多くなっている」「(他の一般飲食店)」「例年になく観光客の利用が落ち込んだ。資金繰りが厳しく、4月以降持ちこたえられるかわからない」「(旅館)」「地方では景気回復の実感はない。消費低迷や仕入価格上昇など不安材料には事欠かない(食堂・レストラン)」

### 続く先行き不安

新年度以降の公共工事の減少、所得・雇用情勢の悪化、年度末の資金繰り不安、倒産・廃業の懸念など、先行きに対する不安が続いている。「4月以降の受注が不透明で3割以上の売上減を想定している事業所もある。一番底を懸念している」「(岡崎・自動車・同附属品製造業)」「宿泊者数が減少する時期に大雪に見舞われ、宿泊申し込みが激減。先行き不安が大きくなっている」「(新潟・旅館)」

景況は回復しつつあるものの、大手自動車メーカーのリコール問題がどのような影響を及ぼすか懸念している。「(さいたま・ブリキ缶等製造業)」「運搬機等の業種では一段と厳しさが増しており、受注減少や価格競争が続く。先行き不透明感が払しょくできない。大手メーカーの海外移転も進んでおり、産業空洞化の進行など危惧する状況が強まっている」「(新居浜・一般産業用機械製造業)」

【サービス業】「売上が伸び悩む中、店舗経営が難しくなり、余力のあるうちに廃業する店舗が多くなっている」「(江別・その他の小売業)」「スーパーなどの低価格攻勢により、客数減となり厳しい状況が続いている」「(蒲郡・商店街)」

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
9月	▲61.4	▲57.5	▲67.0	▲56.8	▲64.0	▲56.9
10月	▲60.6	▲64.1	▲62.4	▲65.4	▲62.9	▲51.8
11月	▲60.0	▲55.5	▲60.2	▲67.7	▲64.3	▲54.8
12月	▲63.8	▲62.4	▲59.4	▲67.1	▲71.7	▲58.6
1月	▲62.3	▲63.9	▲58.0	▲58.3	▲69.5	▲59.1
2月	▲56.2	▲61.4	▲47.4	▲57.1	▲62.7	▲54.5
見通し	▲47.1	▲63.5	▲39.7	▲39.3	▲51.5	▲42.5

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

ている」「(函館・一般産業用製造業)」「生産は、自動車関連部品を中心に前年同月比で若干回復している。ただ、4月以降の生産計画が不透明で積極的に雇用ができない」「(高崎・自動車・同附属品製造業)」「下請業者が高齢化により廃業したため生産が続けられず、連鎖的に廃業した企業が発生(泉大津・ニット・シャツ製造業)」「地方企業は常に人材不足。不況時こそ優秀な人材確保の好機であると考えており、新卒採用を積極的にやりたい」「(三島・調味料製造業)」